

道路の“にぎわい”と“混雑”に関する分析

(株)オリエンタルコンサルタンツ 正会員 高森 卓
同上 正会員 千葉俊彦
同上 正会員 武田浩卓
同上 正会員 富樫 慎

1. はじめに

現在、全国では都市の活力が低下することが懸念され、その活力を生み出し、持続させるような総合的な活性化策を講ずる必要性が高まっている。その都市の活力を表す一つの要因として、人々が直接感じ得るものに、人が集うことにより形成されるまちの“にぎわい”がある。しかし、これは、“にぎわっている”という良いイメージで捉える場合と、“混雑している”という悪いイメージで捉える場合とに二分され、そのイメージがまちのイメージとして認識され、さらに、そのまちに再来するかどうかの選択要因の一つとして成りうるものである。

そこで、本研究は、都市の活力を表す一要因としての“にぎわい”と“混雑”の感じ方の客観的な相違について分析を行った。

2. “にぎわい”と“混雑”の評価の違い

図-1は、東京都台東区の住民および事業所を対象に、区内道路に対する道路の“にぎわい”と“混雑”の感じ方について質問した結果である。下図のように「人通りが多い」と解答されている道路に対する感じ方は、個々の道路、アンケート対象者によって異なっている。

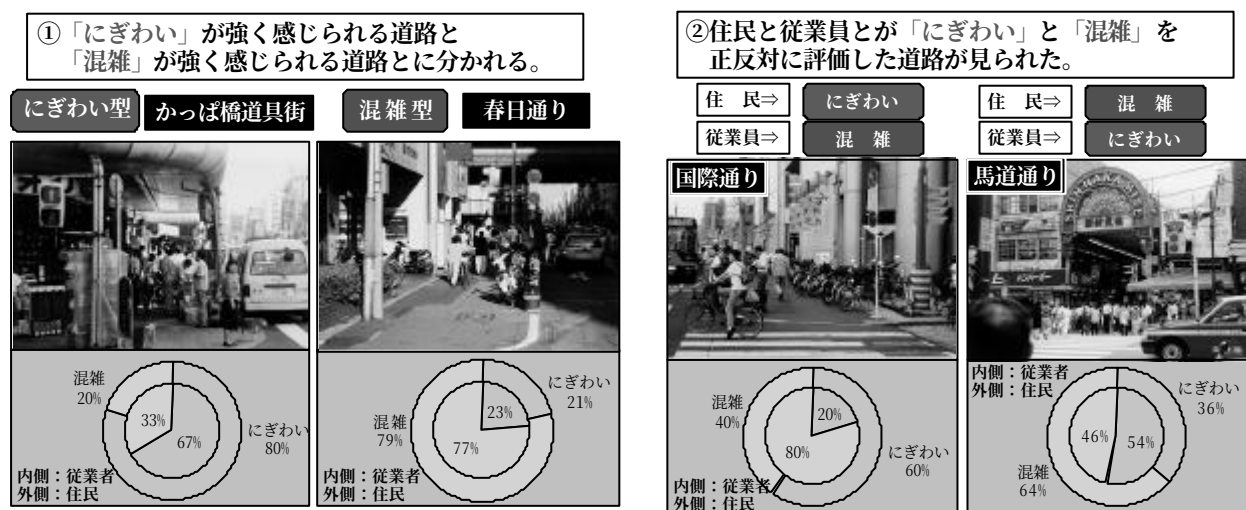


図-1 「混雑」と「にぎわい」の評価の違い

そこで、感じ方の相違の要因が何に起因しているかを分析するために、図-1で示した①の「にぎわい型」と「混雑型」の道路状況について、1)沿道状況、2)歩道幅員、3)歩行者密度の3項目について、分析を行った。

キーワード：まちのにぎわい、まちの混雑

連絡先：〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝の口ビル

電 話：044-812-8208 FAX：044-812-8209

3. “にぎわい”と“混雑”の評価の検討結果

(1) 道路状況の比較

「にぎわい型」と「混雑型」を比較、検討した結果、図-2に示したように、沿道状況、歩道幅員および歩行者密度における基本的な要素としては、相違が見られない。しかし、歩行者密度を構成する要素である歩行者交通量、即ち歩行者速度において、「混雑型」は「にぎわい型」の約2倍の速度であることがわかった。そこで、この相違について歩行者行動からの比較、分析を行った。

(2) 歩行者行動の比較

歩行者行動について、「にぎわい型」と「混雑型」を比較、検討した結果を表-1に示した。

- 「にぎわい型」の歩行者行動としては
- ①店先で立ち止まる「溜まり」が発生している。
 - ②店側と車道側とに通行区分が自然と分けられている。
 - ③通行の障害となる歩道の占用物件は陳列商品である。

一方、「混雑型」の歩行者行動としては、

- ①直線的な通過行動もしくは沿道商店内へ直行する行動である。
- ②通行は区分されず、歩行者は交錯している。
- ③通行の障害となる歩道の占用物件は放置自転車が多い。

4. 結論

まちの“にぎわい”と“混雑”について比較、分析を行い、以下の結論を得た。

- ① “にぎわい”と“混雑”をつくる要素は「歩行者の速度」、「通行目的」、「沿道状況」等に起因する。
- ② 自由歩行に対する抵抗感が影響する。例えば、
 - ・歩道幅員1.5mをすれ違いながら5km/hで歩行すること
 - ・放置自転車という迷惑物件が障害であること
- ③ 「にぎわい」イメージを持たせるため、「溜まり」と「通過」のスペース区分が有効

5. おわりに

今回は、「にぎわい型」と「混雑型」という明確なイメージのある通りについての比較、分析を行った。これから、アンケート対象によって“にぎわい”と“混雑”の感じ方が異なった通りの要因分析や来街者の感じ方についての分析を行う。

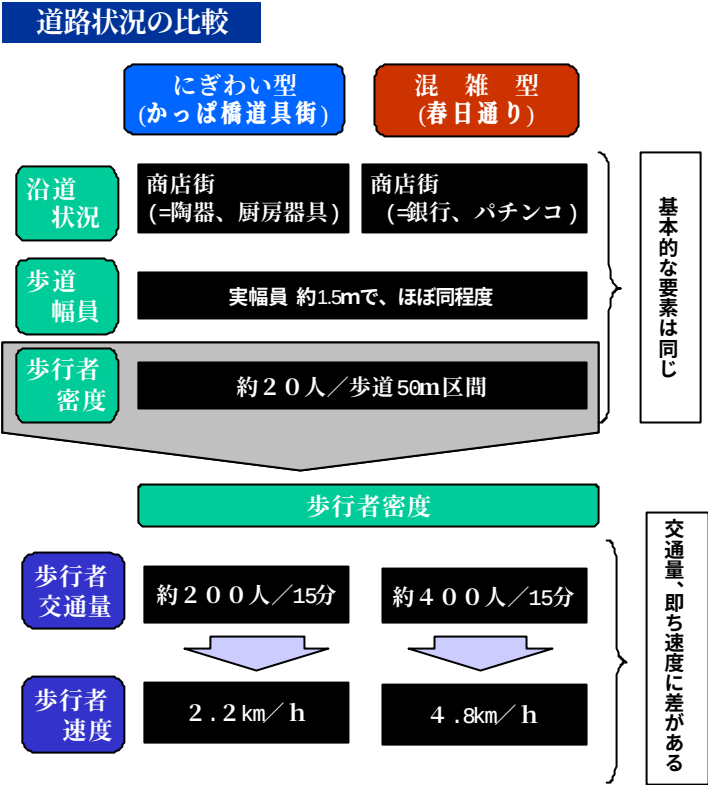


図-2 「にぎわい型」と「混雑型」の道路状況の比較

表-1 「にぎわい型」と「混雑型」の歩行者行動の比較

	にぎわい型 (かっぱ橋道具街)	混雑型 (春日通り)
歩行速度	2.2km/h(買物 多) 4.2km/h(通過 少)	4.8km/h
歩行者行動	店先で立ち止まる 「溜まり」が発生	・まっすぐに通過 ・店内へ直行
通行区分	・店側に買物客 ・通過は車道側	とくに区分はないが 交錯が多い
占用物件 (障害物)	陳列商品 (=陶器、厨房器具)	放置自転車